



北海道一斉海岸調査 2012

期間:2012年4月1日~5月31日

日本野鳥の会オホーツク支部

WBSJ-Okhotsk

北海道一斉海岸調査 2012



調査要領

1. 調査に必要なもの

【調査海岸の図面（地図）】

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.gsh.pref.hokkaido.jp/download/shore/index.html>

北海道海岸環境情報図 ver1.06（PDF版）〔ZIP形式圧縮ファイル：32.9MB〕

取りまとめの際の労力軽減のため、図面や野帳はできる限り統一したいと考えております。ご協力をお願い致します。ただし、ナローバンド環境等でダウンロードが困難な方は、国土地理院発行の1/25,000や1/50,000の地形図、または環境省（環境庁）発行の自然環境保全基礎調査用メッシュマップ（1/50,000）等を使用されても構いません。

地図への記入例は以下からご覧頂けます。念のため、プリントして調査に持参されると良いでしょう。

記入例：<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

【調査野帳】

調査野帳も統一致しますので、ご協力下さい。

以下からダウンロードしてご使用下さい。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

記入例はダウンロードして頂くPDFファイルに付記されているほか、上のページからもご覧頂けます。一見して難しそうですが、すぐに慣れますので大丈夫です。

「実習」というような心構えで、焦らずじっくりやってみてください。

記入方法が分からない場合は、余白や裏面などを利用して、可能な限り詳細な情報を残し、「自分以外の第三者が読んでも分かるように」を心がけて下さるよう、お願い致します。

【メモ帳・筆記用具】

慣れている方は、調査時は携帯に優れた小型の野帳に記入し、終了後に正式な野帳に必要な項目を書き写して提出する、というやり方でも構いません。

無理なく続けられるよう、ご自身のやりやすいやり方で行ってください。

【双眼鏡、望遠鏡、カウンター等の観察用具】

漂着物調査と同時に簡単な野鳥のカウント調査も行なって頂きます。望遠鏡は状況や体力に応じて適宜使用して下さい。カウンターは必携ではありませんが、あると便利です。

【油性マジックペン】

何らかの回収物があった場合に、袋の外側に「回収日」、「回収場所（例：能取－③）」、「回収者氏名」を明記するために使います。

袋に直接書かずに、“荷札”などを利用する方法もあります。必要な情報が分かればどちらでも構いません。ただし、必ず油性のペンを使用してください。

【アルミホイル】

原則として油サンプルの収集は行いませんが、もし独自に油をサンプリングされる場合、油が直接ビニール袋に触れてしまうと成分が変化してしまい、分析に支障を来す恐れがあるため、まずアルミホイルにしっかり包んでから袋に収納するようにしてください。一般的な家庭用のアルミホイルで構いません。

【ビニール等の袋】

レジ袋や家庭用ゴミ袋でも構いませんが、ジッパー付きの冷凍保存用バッグ（いわゆる“ジップロック”）も各サイズ携帯されると便利です。

【カメラ】

調査地の写真（環境写真、調査風景写真）は不要ですが、鳥獣の死体や油関係の漂着物等、重要な発見があった場合には必ず様々な角度から写真を撮影してください。電子メールでの簡便なやりとりを念頭に置いているため、できればデジタルカメラを使用して下さい。PCモード UXGA 以上で撮影できるものであれば携帯電話内蔵のカメラでも構いません。フィルムカメラの場合は恐れ入りますがスキャンして下さい。ネガやプリントはお預かりできませんのでご了承下さい。

撮影例はこちらからご覧頂けます。

<http://www.wbsj-okhotsk.org/beachcensus/cbs.htm>

【ゴム手袋・マスク】

死体などに触れる際は必ず手袋・マスクを着用してください。手袋は薄手の使い捨てタイプの方が便利です。

2. 調査マニュアル

【調査期間】

調査期間は2012年4月1日～30日までの一ヶ月間とします。

一斉調査日は特に設けません。この期間内に一回以上、調査を実施して下さい。

期間内に複数回実施できる場合は、可能であれば場所を変更し、より広域をカバーして下さい。お願い致します。ただし、広域の調査が困難な場合は同じ場所を複数回調査されても構いません。調査時間の制限はありません。ご自分のペースで、焦らず、慌てず、じっくりと行ってください。

岩礁など、海岸を歩くことが困難な地域の場合は、遠望の利く安全な場所から望遠鏡などを利用して漂着物の有無、周辺の野鳥などを確認して下さい。

【調査人員】

調査員は何名でも構いません。

「調査」という名前に縛られず、地域のお仲間やご家族で気軽に海岸散歩を楽しみながら実施して頂ければと思います。

【調査範囲・距離】

調査範囲や距離は特に決めません。何mでも何kmでも構いません。

ご自分でアクセスしやすい場所を決め、無理のない方法で実施してください。

ただし、調査した区間が確実に分かるよう、図面上にはっきりと示してください。

特に漂着物等の発見がなくとも調査区間を明記の上、ご報告下さい。

海岸を歩く方法での調査を基本と考えていますが、地形的に歩くことが困難な場所、あるいは河口や港湾部などについては、定点を設けて周辺の漂着物の様子や沿岸性鳥類のカウントを実施してください。

【調査の方法】

海岸線をジグザグに歩いて、次のような漂着物を探し、見つけたら必要事項を野帳に記入し、撮影を行います。

- ・ 海鳥の死体（油の付着に関わらず）
- ・ オイルボール（塊～ムース状など様々な種類があります）
- ・ 油が付着したロープや漁網
- ・ その他特筆すべき漂着物

また同時に、周辺の海上・海岸にいる鳥の種類とおおよその数を調べます。

調査中に出現したものを随時記録していく方法だと、煩雑になってしまいがちです。このため、始点と終点あるいはそのどちらかなど、一度または二度カウントを行うのがベターです。

ただし、この場合も途中で大きな群れが出現するなど特筆すべき確認があった場合は、その都度、追加で記録するようにして下さい。

【鳥の死体やオイルボールなどの漂着物を発見した場合】

まず、必要な情報を野帳に記入し、様々な角度から撮影を行います。

鳥の死体の場合、油の付着に関わらず、必ず撮影を行って下さい。

油の付着があるかどうか、様々な角度から詳細に観察し（死体を扱う場合は必ずゴム手やマスクなどを装着して下さい）、付着が認められた場合はそれに関わる部分について野帳に記入して下さい（食害の有無や個体の状態など：記入例参照）。

【回収（サンプリング）についての考え方】

鳥インフルエンザ等の感染症の拡散を防ぐため、当面の間、野鳥の死体は死因（交通事故等）が明らかな場合を除いて回収しないこととします。死体にはなるべく触れないようにし、やむを得ず触れる場合は使い捨ての手袋を着用し、作業後の消毒を万全にするようお願い致します。

~~死体の回収（油のサンプリング含む）を行うかどうかは現場判断とします。以下を参考に、各自、適宜判断して下さい。~~

- 腐敗や損壊の進んだものは無理に回収せず、自然に分解を委ねたいと思います。死体もある種の生物にとっては重要な食料ですので、そのまま放置するのが最良である場合も多々あります。
- 油が付着しているものについては捕食者による二次被害防止のため穴を掘って埋めるなどして下さい。ただし、死体が大量に漂着していたり、油そのものの漂着が見られる場合はまず地元行政や警察・海上保安庁等への通報を優先し、現場保全に努めてください（【緊急時の判断について】参照）。
- 見つかった油を逐一採取して分析するのが理想的ではありますが、残念ながら、こういった民間調査によってサンプリングされた油を分析する道筋が確立しておらず、私ども個人では保管するにも限度があるため、当面の間、各調査員の皆様からの油サンプルの収集は原則として行いません。甚だ不本意ではありますが、熟慮の上の結論としてご理解下さい。
- サンプルの収集は見合わせますが、今後分析への道筋がついた場合のために個人として少しでもサンプルを保管しておきたいとお考えの方もおられるかと思えます（私どもとりまとめ側も個人としてのサンプリングは続けていく所存です）。“分析用のサンプル”と聞くと、死体を丸ごと保存しなければならないような錯覚を受けますが、実際には「（鳥の場合）油が付着した羽が数枚程度」あれば分析が可能です。念のため、「数枚程度」よりも若干多い程度の量をアルミホイルに包んだ上で冷凍保存（可能であれば業務用冷凍庫）することをお勧めします。採取日や採取地といった基本的な情報は袋に記入すると同時に、紙に鉛筆で書いて袋の中に入れておくと万全です。ご参考になさって下さい。
- ~~まれな種類や新鮮な死体は貴重な資料になります。博物館や研究者の方々へご提供し、様々な調査研究の資料として活用して頂きたいと思えます。ご自身で対応が可能な方は適宜お願い致します。私どもでも必要に応じて仲介致しますので、ご連絡下さい。回収はできるが保管が難しいという場合は、嚴重に梱包~~

の上、クール便にて下記川崎か渡辺まで取り急ぎお送り下さい（要事前連絡）。
その場合の費用については恐縮ですが各自ご負担下さい。

- 現在、鳥インフルエンザに係わる対応（死亡野鳥等のウイルス保有調査）については、全ての鳥種が感染リスク毎にいくつかのグループに分けられており、発生状況毎の「対応レベル」と照らし合わせて「死亡1羽から検査」や「10羽から検査」などと判断することとなっています。海岸調査実施中、もしくは移動中に野鳥の死体を発見した場合については、下記の表や環境省発表の各種資料（下記 URL 参照）を参考にして、最寄りの振興局（下記参照）や市町村、警察等へ通報するなど、適宜対応して下さい。今季はこれまでのところ日本国内での高病原性鳥インフルエンザの発生は報告されておらず、対応レベルは最も軽度の「1」となっておりますが、海岸調査実施時にはレベルが引き上げられている可能性もあります（報道等を参考にして下さい）。もし判断に迷うような状況が発生した場合は、川崎までご一報下さい。

対応レベル	死亡野鳥におけるウイルス保有状況の調査						その他の種
	リスク1		リスク2		リスク3		
レベル1	1羽以上	シヅユウカラガン, マカ	3羽以上	カイツブ	10羽以上	カワウ, サギ科全種, リスク1-2以外のカモ科・カメ科・タカ目・フクロウ目全種	10羽以上
レベル2	1羽以上	ン, ヒシクイ, コフハクチョ	1羽以上	リ, ハジロカイツブ	10羽以上		10羽以上
レベル3	1羽以上	ウ, オオハクチョウ, コハク	1羽以上	リ, カンムリカイツブ	5羽以上		10羽以上
野鳥監視重点地域(国内発生地周辺)	1羽以上	ヨウ, オシドリ, キンクロハジロ, オジロワシ, オオワシ, オオタカ, ハイタカ, ノスリ, サシバ, クマタカ, チュウヒ, ハヤブサ, チョウゲンボウ, および「重度の神経症状が確認された水鳥類」	1羽以上	リ, マカモ, オナガガモ, ホシハジロ, スズガモ, タンチョウ, ナベヅル, マナヅル, バン, オオバン, ユリカモメ, ワシミシク, コノハズク, フクロウ	3羽以上		3羽以上

※『環境省配布資料：野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル簡易版（感染リスクの高い種一覧含む）』の表を改変。

※ [リスク1] の、「重度の神経症状」とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞ

らせて立っていられなくなる状態で、正常に飛翔したり、採食したりできないもの。

- 例1) 対応レベルが1の時点で、オオセグロカモメ（リスク3）9羽の死体を一度に確認した場合 → 検査せず（10羽以上は検査）
- 例2) 対応レベルが1の時点で、オオハクチョウ（リスク1）1羽の死体を確認した場合 → 検査実施（振興局等に通報）
- 例3) 対応レベルが1の時点で、オナガガモ（リスク2）2羽の死体を確認した場合 → 検査せず（3羽以上は検査）
- 例4) 対応レベルが3の時点で、オオセグロカモメ（リスク3）5羽の死体を確認した場合 → 検査実施（振興局等に通報）
- 例5) 対応レベルが3の時点で、（その他の種）スズメ9羽の死体を確認した場合 → 検査せず（10羽以上は検査）
- 例6) 対応レベルにかかわらず、オジロワシやオオワシ、ハヤブサ、ウミガラス等（希少野生動物種→下記参照）の死体を確認した場合 → 環境省に通報

鳥インフルエンザへの対応については、以下 URL 等を参照して下さい。

【環境省：野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル】

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html

- なお、チシマウガラス、コウノトリ、シジュウカラガン、オジロワシ、オオワシ、オオタカ、クマタカ、イヌワシ、ハヤブサ、タンチョウ、カラフトアオアシギ、ウミガラス、エトピリカ、ワシミミズク、シマフクロウは「絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律」により希少野生動物に指定されている種です。調査中にこれらの死体を発見した場合は、~~死体の状態に関わらず、可能な限り回収して下さい。その場での回収が難しい場合は、波による再流出を防ぐため高い位置に移動した上で、後日回収しやすいよう、分かりやすい目印を付け、環境省北海道地方環境事務所（TEL：011-251-8700）、釧路自然環境事務所（TEL：0154-32-7500）、あるいは最寄りの自然保護官事務所に連絡してください。これらの生体を保護（弱っている個体を確認したが保護できない場合も含めて）するなど、緊急時であっても、土日祝祭日は行政機関と連絡が取れないことがあります。この場合は最寄りの警察などに相談して下さい。~~

【保護が必要と思われる鳥獣の生体を発見した場合】

※鳥インフルエンザウイルス保有状況検査をすべき死体（前ページ参照）を発見した場合含む

以下の各（総合）振興局の保健環境部環境生活課、または各市町村窓口にご連絡して指示を仰いで下さい。ただし、土日等休日に対応できない場合が多いと思いますので、あらかじめ緊急時の持ち込み先などを聞いておくと良いでしょう。

支庁名	代表電話番号（内線）	直通電話番号
石狩	011-231-4111(34-384)	011-204-5825
渡島	0138-47-9400(2989)	0138-47-9439
檜山	0139-52-6500(2977)	0139-52-6494

後志	0136-23-1300 (2977)	0136-23-1354
空知	0126-20-0200 (2989)	0126-20-0045
上川	0166-46-5900 (2989)	0166-46-5924
留萌	0164-42-8404 (2977)	0164-42-8436
宗谷	0162-33-2516 (2977)	0162-33-2922
オホーツク	0152-41-0603 (2989)	0152-41-0632
胆振	0143-24-9900 (2989)	0143-24-9578
日高	0146-22-9030 (2977)	0146-22-9254
十勝	0155-26-9005 (2989)	0155-26-9031
釧路	0155-43-9100 (2989)	0154-43-9155
根室	0153-24-0257 (2977)	0153-23-6823

【緊急時の判断について】

緊急通報を含む行政側への連絡等は調査員各自の判断・責任で行って下さい。
参考までに、いくつか考えられるケースを以下に挙げておきます。

● 海上に油（油膜）や不審な船舶が漂流していた場合

→ 海上保安庁（118番）に連絡し、状況を説明して指示を仰いでください。

● 海岸に油や、危険物（含ドラム缶）、不審な船舶等が漂着していた場合

→ 大量の油が漏れだしているなど、緊急性が認められる場合は警察（110番）に連絡してください。海上保安庁（118番）でも対応してくれます。「見てみないふり」はいけません。

→ 風化しているような古いドラム缶等については、記録は逐一取っておきますが、特に行政へ連絡する必要はないと考えています。
各自状況を勘案の上、ご判断下さい。

● クジラやイルカの座礁を発見した場合

→ 以下の「北海道いるか・くじら110番」に連絡して下さい。

「北海道いるか・くじら110番」

専用電話：090-1380-2336

メールで報告する場合（写メール添付可）： kujira110@gmail.com

参考ホームページ：<http://snh.seesaa.net/>

【調査結果について】

今回の調査について、事前の参加申し込み等は不要です。

実施した場合のみ、下記の川崎、渡辺のどちらかまでデータをお送り下さい。

データ提出の締切は2012年4月末日とさせていただきます。

ご協力をお願い致します。もし、データの提出が遅れる場合はあらかじめご相談

下さい。

データは次のいずれかの方法でお送り下さい。

諸費用につきましては恐れ入りますが各自ご負担下さい。

「何もいなかった」、「何も漂着していなかった」という情報も非常に重要です。調査を実施された場合は必ずご報告下さるよう、お願い致します。

○ 郵送（含メール便）

調査図面、野帳をお送り下さい。三つ折りでも構いません。

漂着物の写真がある場合は CD にコピーの上、同封して下さい。

○ 電子メール

図面と野帳を 150dpi 程度でスキャンして頂き、漂着物の写真があればそれとともに電子メールに添付してお送り下さい。

図面と野帳をデジカメで撮影して頂き、細部までしっかり写っていることをご確認の上、画像を送って下さっても結構です。

非常にデータ量が多い場合は「宅ファイル便」や「データ便」などの大容量ファイル送信サービスが便利です。いくつかのファイルを一つに圧縮することで、一度に数多くのファイルを送ることも可能です。

参考：「宅ファイル便」 <http://www.filesend.to/>

○ FAX

特に漂着物の確認がなく、画像がない場合は、図面と野帳を FAX でお送り頂いても結構です（川崎まで）。

[送り先・連絡先]

〒099-3452 斜里郡小清水町浜小清水 72-25 川崎康弘

自宅電話（FAX 兼）：0152-63-4110 携帯電話：090-3777-6986

電子メール： marlboro@phoenix-c.or.jp

〒093-0033 網走市網走市駒場北 4-1-2 motoN 駒場 223 渡辺義昭

携帯電話：090-6870-9298

電子メール： wakitori@m3.gyao.ne.jp

【調査データの取扱について】

お送り頂いたデータは川崎・渡辺がとりまとめを行い、できる限り早期に集計を行い、集計結果を「速報」として日本野鳥の会オホーツク公式 Web サイト（<http://www.wbsj-okhotsk.org/>）および油問題専用ブログ（<http://blog.livedoor.jp/abura060303/>）にて公開致します。その後、2013年3月をめどに報告書をまとめ、Web 経由で配布させて頂きます。印刷物での配布は現在のところ考えておりませんので、ご了承下さい。

報告書には調査に参加頂いた皆様のご氏名を記させて頂きません（連絡先等は掲載致しません）。ご都合が悪い方はその旨、あらかじめご連絡下さい。

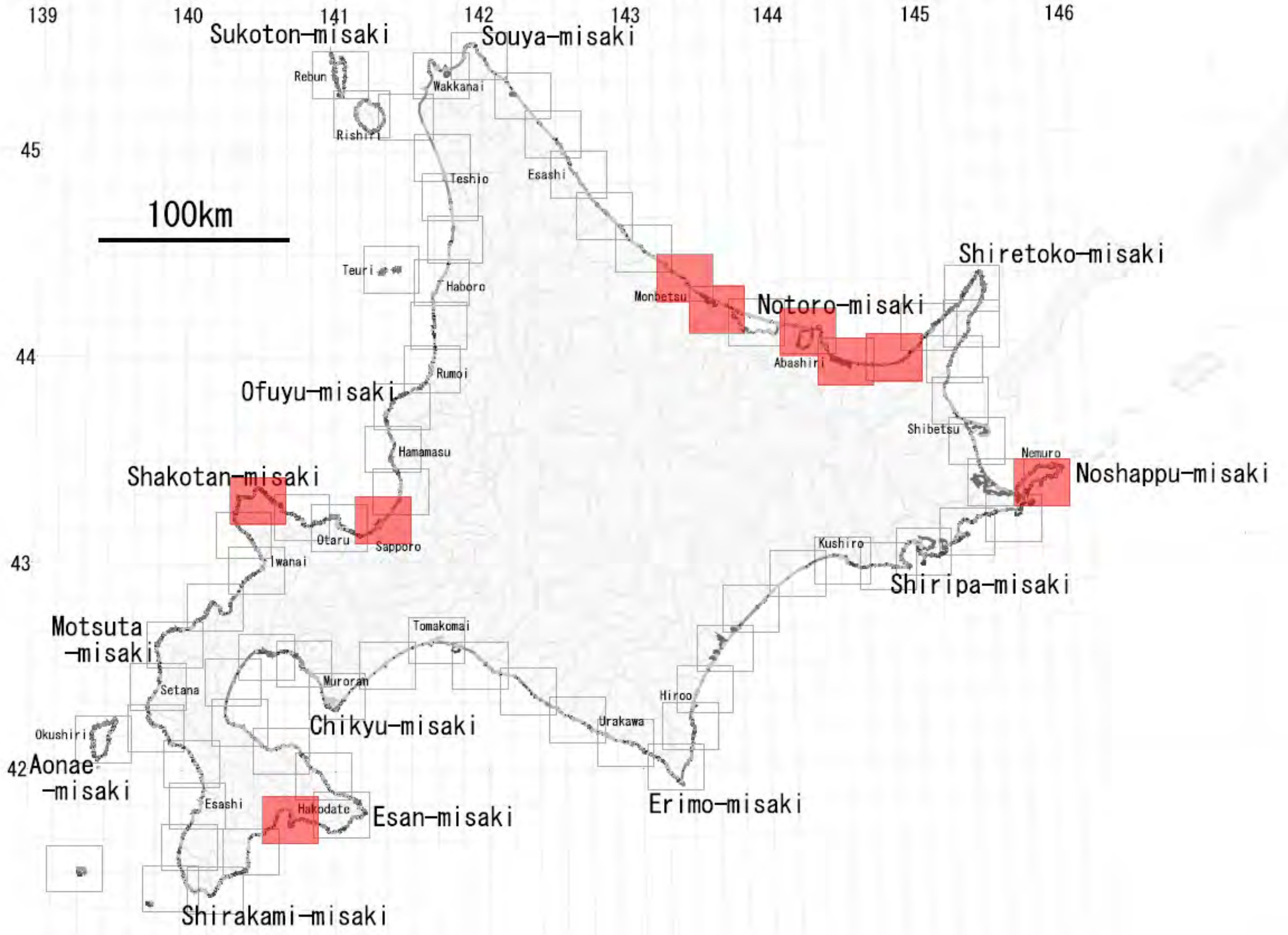
調査データは要請に応じて様々な調査研究に活用して頂くよう適宜ご提供し

て参りたいと考えております。調査データの取扱につきましてはとりまとめ役
にご一任下さるよう、あらかじめご了承下さい。

【その他】

調査等、一連の活動については各自の責任で行い、事故等のないようくれぐれ
もご注意下さい。万が一、事故等があっても一切責任は負えませんのでご了承
下さい。

説明が不十分な点多々あるかと思えます。ご不明の点がありましたら、川崎
か渡辺までお気軽にお訊ね下さい。



海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	小山内庸博、小山内澄恵	観察日	2012年4月22日	観察時刻	13:15～14:05	天候	晴れ			
海岸名(市町村)	渚滑川河口右岸(紋別市)			観察者の熟練度	観察をした経験が何度かある	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
13:15	166	始点								3A
13:15	166	1		ウミネコ	20+					3A、生体、異常なし
13:15	166	1		ユリカモメ	2					3A、生体、異常なし
13:15	166	1		シロカモメ	1					3A、生体、異常なし
13:15	166	2		セグロカモメ	10					3A、生体、異常なし
13:15	166	3		オオセグロカモメ	10					3A、生体、異常なし
13:15	166	3		セグロカモメ	10					3A、生体、異常なし
13:15	166	4		オジロワシ	1(幼鳥)					3A、生体、異常なし
13:45	166	折り返し								3A
14:05	166	終点								3A

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭、渡辺恵	観察日	2012年4月12日	観察時刻	9:35～11:50	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		能取湖口西側(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
9:35	257	始点								既存の古ドラム缶は記録せず
9:35	257	1		ウ類	120±					生体、異常なし
9:35	257	1		シノリガモ	370+					生体、異常なし
9:35	257	1		オジロワシ	120±					生体、異常なし
9:35	257	1		ヒメウ	120±					生体、異常なし
9:35	257	1		ウミアイサ	4					生体、異常なし
9:35	257	1		カモメ類	20±					生体、異常なし
11:50	256	終点								

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭、渡辺恵	観察日	2012年4月12日	観察時刻	7:55~8:50	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		能取湖口東側(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
7:55	273	始点								既存の古ドラム缶は記録せず
7:55	273	1		シノリガモ	110±					生体、異常なし
7:55	273	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
7:55	273	1		ウミアイサ	19					生体、異常なし
7:55	273	1		ヒドリガモ	9					生体、異常なし
8:20	273	2		シロチドリ	2					生体、異常なし
8:50	273	終点								

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭	観察日	2012年4月14日	観察時刻	11:30～12:30	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		藻琴川河口～鱒浦(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
11:30	286	始点								
11:30	286	1		ウミアイサ	3					生体、異常なし
11:30	286	1		ホオジロガモ	3					生体、異常なし
11:30	286	1		オカヨシガモ	2					生体、異常なし
12:10	286	2		ウミガラス類	1		OD	N	胸骨	
12:30	285	3		カモメ	27					生体、異常なし
12:30	285	3		オオセグロカモメ	11					生体、異常なし
12:30	285	3		シロカモメ	1					生体、異常なし
12:30	285	3		ハシボソガラス	20					生体、異常なし
12:30	285	終点								

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	渡辺義昭	観察日	2012年4月14日	観察時刻	7:50～9:10	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		北浜～藻琴川河口(網走市)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
7:50	289A	始点								
7:50	289A	1		ウミアイサ	9					生体、異常なし
7:50	289A	1		ホオジロガモ	1					生体、異常なし
8:45	287	2		ウミウ	1		OD	N	頭、胸骨	釣り糸が絡みついた白骨死体
9:10	287	終点								

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘	観察日	2012年5月31日	観察時刻	10:25～12:45	天候	晴れ／霧			
海岸名(市町村)	小清水原生花園～濤沸湖口(小清水町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用				
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
10:25	293	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
10:30～11:55	293	2		ミズナギドリ類	8		OD～PD	N		
11:37	293	3		ドラム缶	1					
11:50	293	4		ドラム缶	1					
12:00～12:30	292	5		ミズナギドリ類	3		OD～PD	N		
12:10	292	6		ドラム缶	1					
12:30	289B	7		ミズナギドリ類	1		PD	N		
12:43	289B	8		カワウ	2					生体、異常なし
12:43	289B	8		トビ	2					生体、異常なし
12:43	289B	8		キアシシギ	9					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘	観察日	2012年5月14日	観察時刻	13:25～15:45	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		小清水原生花園～浜小清水(小清水町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
13:25	295	1		ウミアイサ	1					生体、異常なし
14:00	295	2		ミズナギドリ類	1		OD	N	全身	
14:04	295	3		ミズナギドリ類	1		PD	N	全身	
14:26	296	4		ミズナギドリ類	1		FD	N	全身	
14:40	296	5		ミズナギドリ類	1		OD	N	全身	
14:45	296	6		ミズナギドリ類	1		PD	N	頭、両翼、胸骨	
14:47	296	7		ミズナギドリ類	1		PD	N	左翼、胸骨	
14:50	296	8		オオセグロカモメ	6					生体、異常なし
14:50	296	8		チュウシャクシギ	2					生体、異常なし
14:50	296	8		キアシシギ	6					生体、異常なし
14:57	296	9		小型ウミスズメ類	1		PD	N	胸骨	
15:06	296	10		トウネン	10					生体、異常なし
15:15	296	11		ミズナギドリ類	1		PD	N	頭、両翼、胸骨	
15:19	296	12		ミズナギドリ類	1		PD	N	全身	
15:30	296	13		ミズナギドリ類	1		OD	N	全身	
15:41	296	14		ミズナギドリ類	1		PD	N	胸骨、両足	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	海岸調査講習会参加者 (9名)	観察日	2012年4月15日	観察時刻	8:40～10:23	天候	晴れ
海岸名(市町村)		浜小清水海岸(小清水町)		観察者の熟練度	—	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
8:40	300	1		ウミアイサ	15					
8:49	300	2		ハシボソガラス	2					
9:34	300	3		ウミアイサ	56					
9:50	300	4		ウミネコ	1(幼鳥)		PD	N	頭、胸骨、両足	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘	観察日	2012年5月15日	観察時刻	9:55~11:40	天候	曇り			
海岸名(市町村)		止別駅裏~止別川河口(小清水町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
9:55	302	1		クロガモ	30					生体、異常なし
9:55	302	1		ウミアイサ	1					生体、異常なし
9:55	302	1		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
9:59	302	2		ドラム缶	1					中身空、古い
10:02	302	3		ミズナギドリ類	1		FD	N	全身	
10:06	302	4		キアシシギ	12					生体、異常なし
10:14	302	5		ミズナギドリ類	1		PD	N	両翼	
10:20	302	6		ミズナギドリ類	1		OD		全身	
10:21	302	7		ミズナギドリ類	1		PD		頭、両翼、胸骨	
10:22	302	8		ミズナギドリ類	1		PD		両足、椎骨	
10:29	302	9		ミズナギドリ類	1		PD		両翼、胸骨	
10:33	302	10		ハシブトガラス	1		PD		両翼	
10:34	302	11		ミズナギドリ類	1		PD		両翼、胸骨	
10:38	302	12		ミズナギドリ類	1		PD		左翼、胸骨	
10:43	302	13		ミズナギドリ類	1		PD		左翼、胸骨	
10:44	302	14		ウミネコ	1		PD		両翼、胸骨	
10:46	302	15		オオセグロカモメ	1		PD		左翼、胸骨	
10:47	302	16		ミズナギドリ類	1		PD		頭、右翼、胸骨、両足	
10:47	302	17		ミズナギドリ類	1		PD		両翼、胸骨	
10:54	302	18		ミズナギドリ類	1		OD		全身	
10:57	302	19		ミズナギドリ類	1		PD		腰骨、椎骨、羽毛塊	
10:59	302	20		ミズナギドリ類	1		PD		頭、両翼、胸骨	
11:00~11:35	302	21		ミズナギドリ類	22		FD~PD			
11:20	302	22		ドラム缶	1					古い、中は砂
11:37	302	23		クロガモ	1					生体、異常なし
11:37	302	23		オオセグロカモメ	3					生体、異常なし
11:37	302	23		チュウシャクシギ	1					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	川崎康弘	観察日	2012年5月30日	観察時刻	15:15～17:30	天候	晴れ／曇り
海岸名(市町村)	ウエンベツ川河口～止別駅裏(斜里町・小清水町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用		

個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部

油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない

観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
15:15	304	1		オオセグロカモメ	3					生体、異常なし
15:17	304	2		キアシシギ	10					生体、異常なし
15:17	304	2		キョウジョシギ	2					生体、異常なし
15:25～ 16:02	304	3		ミズナギドリ類	11		OD～PD	N		
16:05	304	4		ドラム缶	1					古い、中身は空
16:08～ 16:36	304	5		ミズナギドリ類	6		OD～PD	N		
16:16	304	6		ドラム缶	1					中身は空
16:26	304	7		ドラム缶	1					古い、中身は空
16:40～ 17:25	303	8		ミズナギドリ類	22		OD～PD	N		
16:59	303	9		オオセグロカモメ	1		PD	N	左翼	
17:03	303	10		ウミウorカワウ	1		PD	N	全身	
17:15	303	11		ウミスズメ類	1		PD	N	胸骨、羽毛塊	
17:25	303	12		オオセグロカモメ	2					生体、異常なし
17:25	303	12		シロチドリ	1					生体、異常なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	寺田紋子		観察日	2012年5月15日		観察時刻	11:00～14:02		天候	曇り	
海岸名(市町村)		斜里前浜(斜里町)		観察者の熟練度		観察をした経験が何度かある		調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用		
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
11:02	306	始点									
11:10	306	1		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:16	306	2		ノビタキ	1						
11:16	306	2		ハシボソガラス	2						
11:16	306	2		トビ	1						
11:16	306	2		ハクセキレイ	1		PD	N	両翼		
11:23	306	3		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:31	306	4		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:39	306	5		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:42	306	6		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:46	306	7		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:50	306	8		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
11:57	306	9		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:01	306	10		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:03	307	11		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	両翼		
12:04	307	12		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:07	307	13		オオセグロカモメ	6						
12:07	307	13		キジバト	2						
12:12	307	14		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:15	307	15		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:20	307	16		コチドリ	2						
12:37	307	17		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
12:46	307	18		ハシボソガラス	15						
12:46	307	18		オオセグロカモメ	14						
12:48	307	19		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
13:01	307	20		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		
13:11	307	21		ヒバリ	1						
13:11	307	21		カワラヒワ	1						
13:20	308	22		コアホウドリ	1	※	FD	N	全身	回収し、知床博物館へ	
13:25	308	23		ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身		

13:34	308	24	ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身	
13:40	308	25	トビ	1					
13:40	308	25	ハシボソガラス	1					
13:40	308	25	ヒバリ	1					
13:40	308	25	カワラヒワ	1					
13:42	308	26	ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	右翼	
13:52	308	27	シロエリオオハム	1	※	PD	N	全身	回収:知床博→川崎
13:55	308	28	ハシボソミズナギドリ	1		PD	N	全身	
14:02	308	終点							

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	黒沢信道、黒沢優子		観察日	2012年4月1日		観察時刻	11:01~14:36		天候	晴れ			
海岸名(市町村)			友知海岸(根室市)			観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法		陸上からスコープを使用	
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>													
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点			
11:06	516	1		オジロワシ	6								
11:06	516	1		ハシボソガラス	7								
11:06	515	2		ツメナガホオジロ	2								
11:06	515	2		ヒバリ	2								
11:06	516	3		オオセグロカモメ	8								
11:06	516	3		ウミネコ	4								
11:06	516	3		セグロカモメ	1								
11:06	516	3		シロカモメ	1								
11:06	516	4		カモメSP	88								
11:06	516	5		クロガモ	115								
11:06	515	7		オオセグロカモメ	1								
11:06	515	7		シロカモメ	1								
11:06	515	7		ヒバリ	6								
11:06	516	8		ウミウ	2								
11:24	515	A		ウトウ	1	A	PD	N	左翼、前腕骨以上と初列風切	海岸のタイプ3A			
11:30	515	B		クロガモ	1	B	PD	N	左翼、皮膚のついた三列風切	海岸のタイプ3A			
11:37	515	C		オオセグロカモメ	1	C	PD	N	右翼、皮膚のついた次列、三列	海岸のタイプ3A			
11:40	515	9		オオセグロカモメ	2								
11:40	515	9		シロカモメ	2								
11:43	515	10		オジロワシ	1(成鳥)								
11:43	515	11		クロガモ	80								
11:50	515	12		ヒバリ	1								
11:50	515	13		ハシボソガラス	6								
11:50	515	13		オオセグロカモメ	1								
12:03	515	14		クロガモ	48								
12:03	515	15		クロガモ	50								
12:21	515	16		ハシボソガラス	21							砂浜のホッキ狙い	
12:27	515	17		クロガモ	46								

12:34	515	18	ホオジロガモ	1						
12:34	515	18	オオセグロカモメ	2						
12:34	515	18	クロガモ	70						
12:35	515	19	オジロワシ	1						
12:36	514	20	クロガモ	40						
12:45	514	D	大型カモメSP	1(成鳥)	D	PD	N	胸羽の散乱	海岸のタイプ3A	
12:50	514	E	ウミネコ	1(成鳥)	E	PD	N	右翼、皮膚のついた次列、三列	海岸のタイプ3A	
12:55	514	21	クロガモ	107						
13:01	514	22	オオセグロカモメ	70						
13:01	514	22	ウミネコ	2						
13:01	514	22	カモメ	2						
13:01	514	22	シロカモメ	1						
13:01	514	23	トビ	1						
13:12	514	24	ウミアイサ	5						
13:12	514	24	クロガモ	290						
13:12	514	24	ホオジロガモ	15						
13:12	514	24	カモメSP	96						
13:12	514	25	クロガモ	1						
13:12	514	26	クロガモ	12						
14:16	515	F	大型カモメ	1(成鳥)	F	PD	N	皮膚のついた胸	海岸のタイプ3A	
14:26	515	G	ウミアイサ	1	G	PD	N	左翼、皮膚のついた次列	海岸のタイプ3A	
14:26	515	H	クロガモ	1	H	PD	N	左翼、皮膚のついた次列	海岸のタイプ3A	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	枷場ゆかり、他5名	観察日	2012年4月28日	観察時刻	9:10～10:19	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		大森海岸(函館市)		観察者の熟練度	観察をした経験が何度かある	調査方法	陸上から小型双眼鏡を使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
9:10	1012	始点								
9:19	1012	1		オオハム	1					生体、異常行動なし
9:19	1012	1		スズガモ	10					生体、異常行動なし
9:23	1012	2		ウミネコ	2					生体、1羽尾羽脱落
9:29	1012	3		ウミネコ	2					生体、異常行動なし
9:47	1012	4		シマアジ	2					生体、異常行動なし
9:59	1012	5		ウミネコ	1					生体、片足の先が欠損
9:59	1012	5		ウミネコ	1					生体、異常行動なし
9:59	1012	5		オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
10:11	1012	6		ウミネコ	2					生体、異常行動なし
10:11	1012	6		オオセグロカモメ	1					生体、異常行動なし
10:19	1012	終点								

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎、外崎秀和、 高松純奈	観察日	2012年4月30日	観察時刻	10:30～11:15	天候	晴れ			
海岸名(市町村)	草内～余別(積丹町)	観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上からスコープを使用					
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
10:30	1212A	1		オオセグロカモメ	4					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	1		ハシブトガラス	2					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	1		ウミネコ	5					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	2		ウミウ	1					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	2		ウミネコ	2					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	3		アビ類	10±					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	3		ウミネコ	20±					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	3		ビロードキンクロ	20±					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	3		ウミウ	50±					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	4		シノリガモ	15					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	4		ウミネコ	3					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	5		オオセグロカモメ	2					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	5		ウミネコ	1					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	6		ヒメウ	3					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	6		ウトウ	2					6A、生体、異常行動なし
10:30	1212A	7		ハクセキレイ	2					6A、生体、異常行動なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎、外崎秀和、 高松純奈		観察日	2012年4月30日		観察時刻	12:28~13:10		天候	晴れ	
海岸名(市町村)			余別(積丹町)			観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法	陸上からスコープを使用
<small>個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない</small>											
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点	
12:28	1212B	1		ウミネコ	23					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	1		ワシカモメ	2					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	1		オオセグロカモメ	9					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	2		ウミネコ	42					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	2		オオセグロカモメ	12					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	2		セグロカモメ	1					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	3		イソヒヨドリ	1					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	3		ウトウ	20					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		ウミウ	100±					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		ヒメウ	100±					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		アビ類	10±					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		カモメ類	50±					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		アビ	2					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	4		シノリガモ	2					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	5		シノリガモ	1					6A、生体、異常行動なし	
12:28	1212B	5		ハクセキレイ	1					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	6		シノリガモ	1					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	7		ヒメウ	60					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	7		アビ類	200±					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	7		カモメ類	50					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	7		ウトウ	10					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	7		ウミウ	10					6A、生体、異常行動なし	
13:03	1212B	8		オオセグロカモメ	2					6A、生体、異常行動なし	

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎	観察日	2012年4月30日	観察時刻	13:36～14:20	天候	晴れ			
海岸名(市町村)		転移(積丹町)		観察者の熟練度	生物観察の経験が豊富	調査方法	陸上からスコープを使用			
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3～2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>										
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点
13:36	1214	1		ハクセキレイ	2					3A、生体、異常行動なし
13:36	1214	2		アビ	4					3A、生体、異常行動なし
13:36	1214	3		シロエリオオハム	2					3A、生体、異常行動なし
13:36	1214	3		アビ類	50					3A、生体、異常行動なし
13:36	1214	4		ミサゴ	1					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	5		ウミウ	5					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	5		ヒメウ	1					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	5		アオサギ	2					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	5		シノリガモ	2					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	6		ハクセキレイ	2					3A、生体、異常行動なし
14:13	1214	6		ウミネコ	1					3A、生体、異常行動なし

海鳥海岸センサス記録用紙

観察者	嶋崎太郎、外崎秀和		観察日	2012年4月8日		観察時刻	11:30~12:20		天候	曇り			
海岸名(市町村)			小樽大浜海岸(小樽市)			観察者の熟練度		生物観察の経験が豊富		調査方法		陸上からスコープを使用	
<small> 個体の状態 ANC=生きていて捕獲せず AC=生きていて捕獲 FD=新鮮な死体 OD=古い死体 PD=死体の一部 油の付着状態 H=全身の2/3以上油が付着 M=1/3~2/3程度付着 L=1/3以下の付着 N=油付着がない </small>													
観察時刻	地図名(番号)	地点番号	地名または緯度経度	種名	個体数(年齢)	汚染鳥を回収する場合のサンプル番号	個体の状態 食害の有無	油の付着状態	死体の残存部位	その他、気づいた点			
11:30	1259	1		ウミネコ	2					3A、生体、異常行動なし			
11:30	1259	2		アカエリカイツブリ	1					3A、生体、衰弱しているが油の付着は不明。捕獲を試みるが泳いで逃げ、捕獲できず。			
11:30	1259	3		ウミウ	2					3A、生体、異常行動なし			
11:30	1259	4		オオセグロカモメ	5					3A、生体、異常行動なし			
11:50	1259	5		オイル缶	4			N		3A、車のエンジンオイル缶? 調査地はモトクロスバイクやRV車の乗り入れが多い			
11:50	1259	6		ハクセキレイ	1					3A、生体、異常行動なし			
11:50	1259	7		ヒバリ	1					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	8		シロカモメ	14					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	8		ウミネコ	1(成鳥)		ANC	M		3A、生体、しきりに羽づくろいを行う			
12:00	1259	8		オオセグロカモメ	11					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	8		カモメ	6					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	8		ウミネコ	9					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	8		ウミアイサ	1					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	9		トビ	3					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	10		大型カモメ類	120±					3A、生体、異常行動なし			
12:00	1259	11		ハシジロアビ	1(不明)		OD	L		3A、首のみ食害			
12:00	1259	12		シロカモメ	1(成鳥)		FD	N		3A			

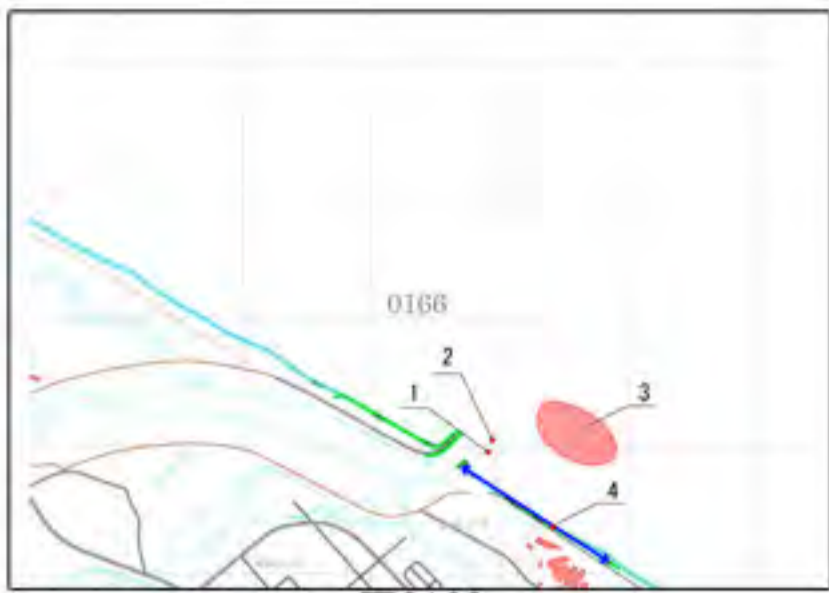


图0166

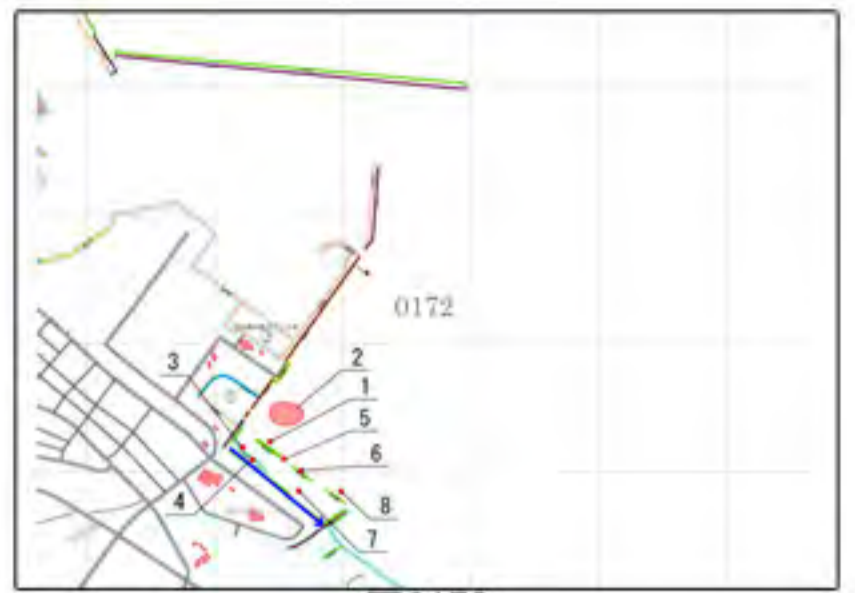


图0172

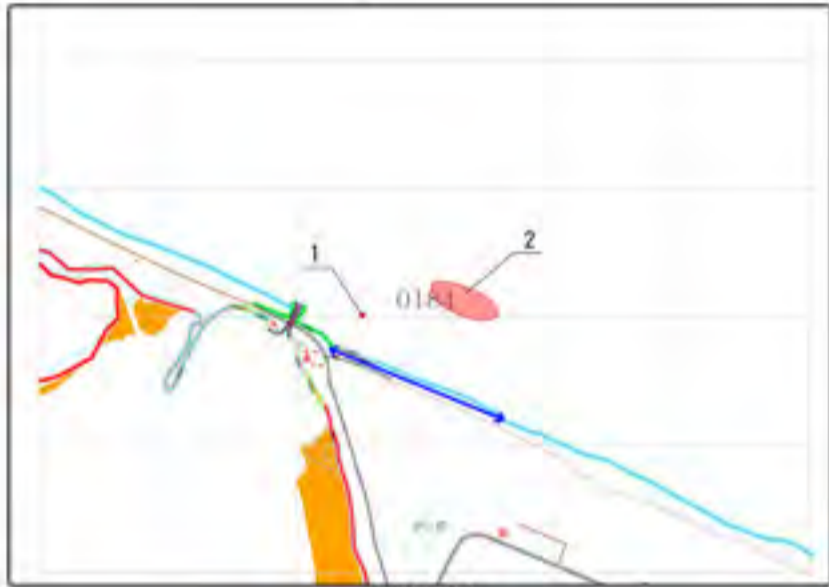


图0184



图0256



图0257

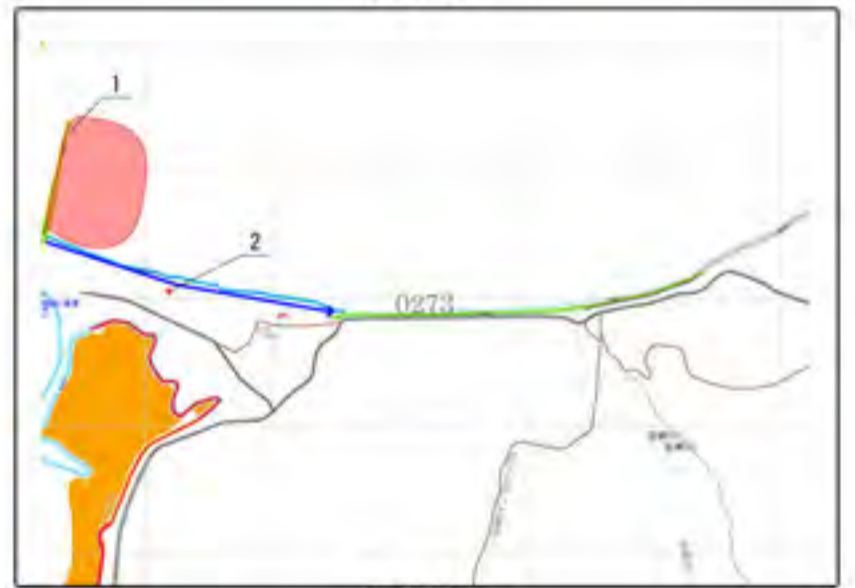


图0273



图0279



图0285



图0286



图0287



图0289A

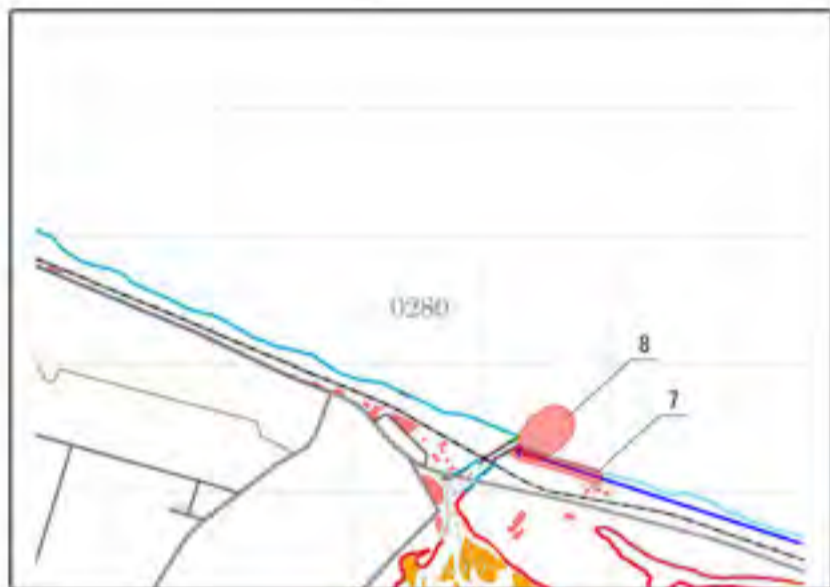


图0289B



图0292

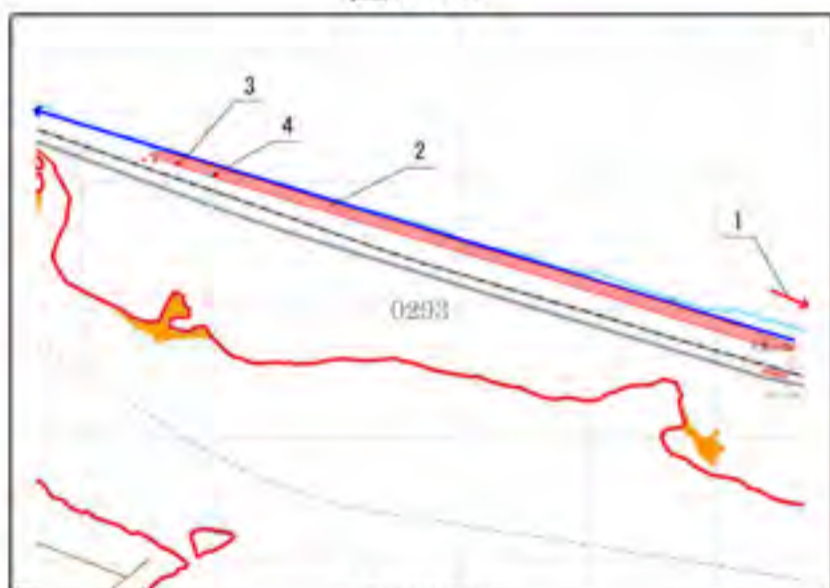


图0293

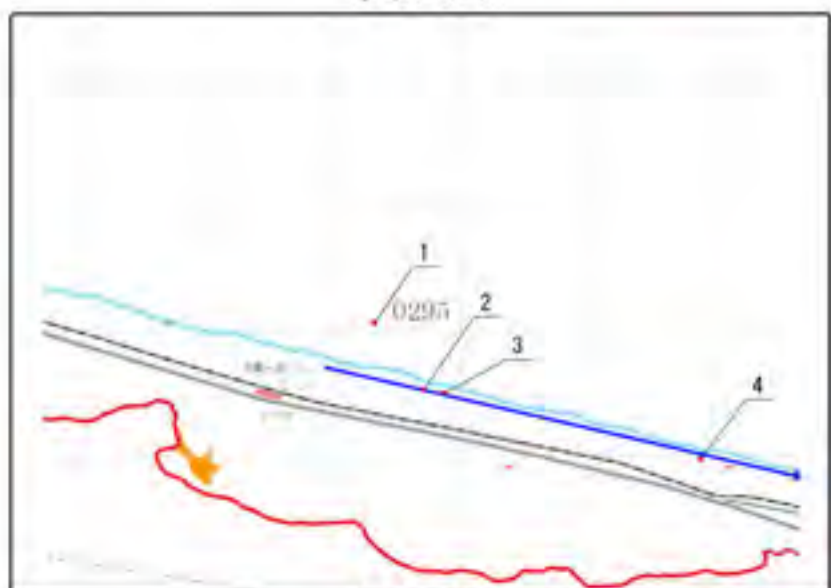


图0295

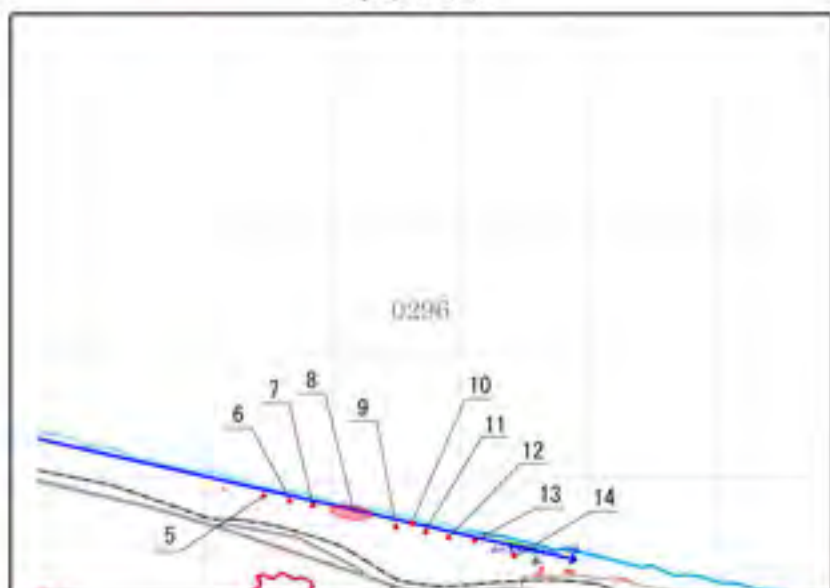


图0296



图0300



图0302



图0303



图0304

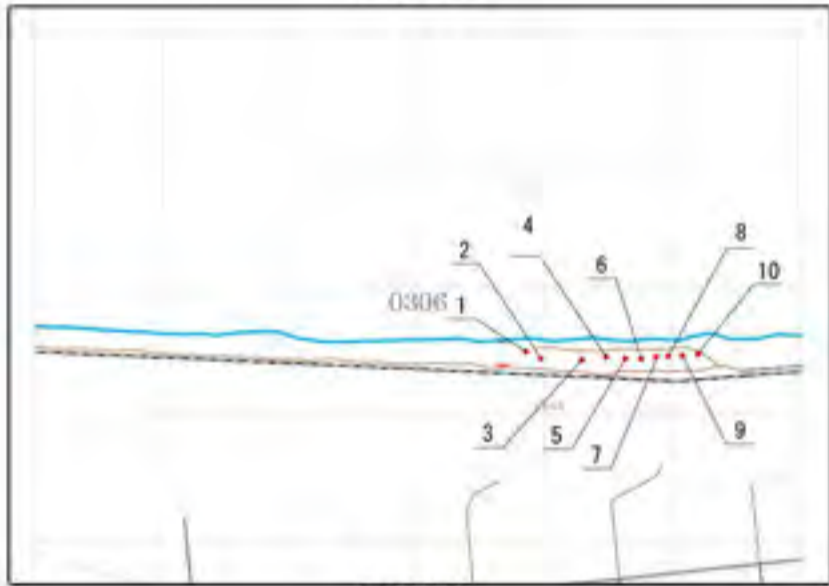


图0306



图0307

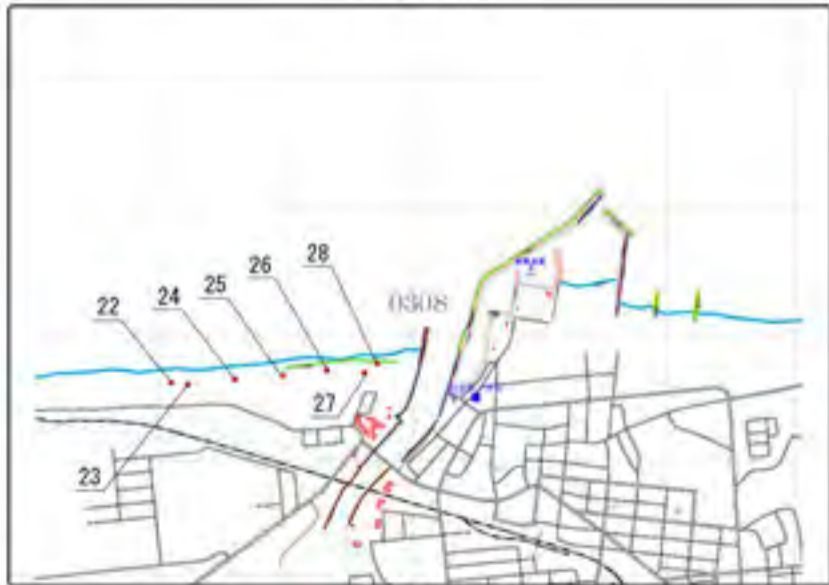


图0308



图0514

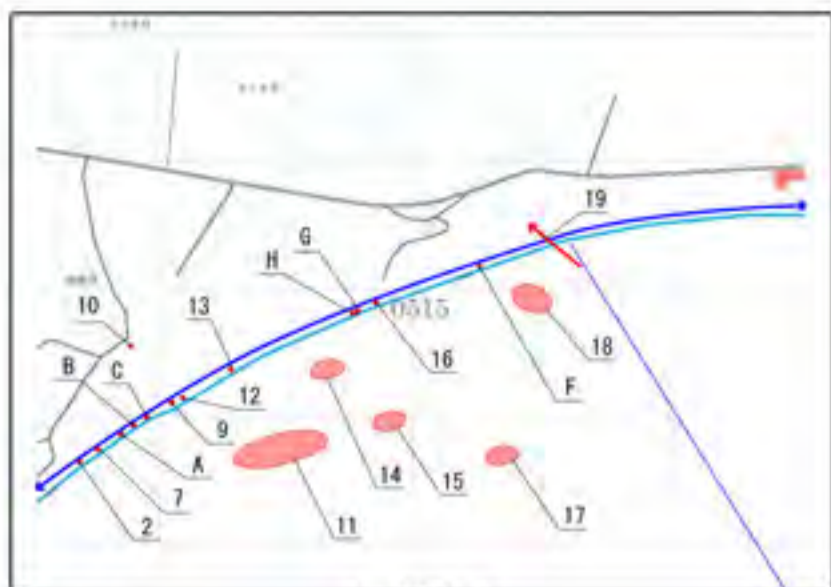


图0515



图0516



图1011



图1012



图1021



图1022



图1023



图1212A



图1212B



图1214



图1259



图0172-4



图0279-1



图0279-2



图0279-3



图0279-4

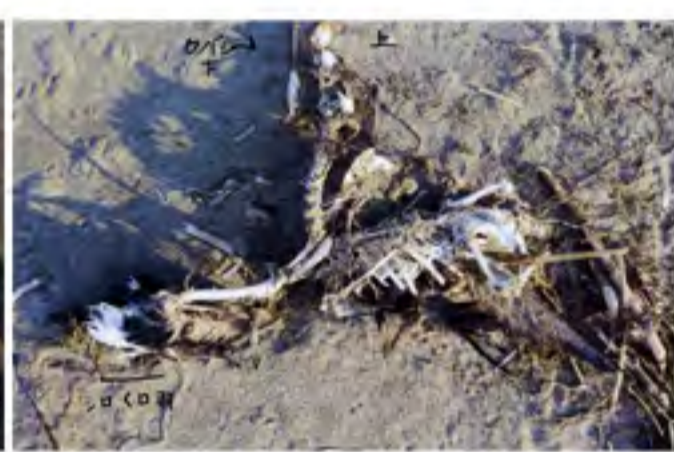


图0279-5



图0279-8



图0286-2



图0287-2



图0306-1



图0306-3



图0306-4



图0306-5



图0306-6



图0306-7



图0306-8



图0306-9



图0306-10



图0307-11



图0307-12



图0307-14



图0307-15



图0307-17



图0307-19



图0307-20



图0308-22



图0308-23



图0308-24



图0308-26



图0308-27



图0308-28



图0514-D



图0514-E



图0515-A



图0515-B



图0515-C



图0515-F



图0515-G



图0515-H



图1011-6



图1022-5 (1)



图1022-5 (2)



图1022-6



图1022-7



图1022-8



图1023-4



图1259-5 (1)



图1259-5 (2)



图1259-5 (3)



图1259-5 (4)



图1259-8



图1259-11



图1259-12

一斉海岸調査 2012 まとめ

日本野鳥の会オホーツク支部

2006年の春、世界自然遺産登録地・知床のウトロ側を中心とした海岸に、重油に汚染された5,600羽もの海鳥の死体が漂着しているのが見つかりました。

この惨事を経験した仲間たちから「定期的な海岸調査が必要」との声が多く集まり、たくさんの方々のご協力を得て、毎年4月に一斉海岸調査を続けています。

【調査結果概要】

海岸調査はオホーツク海側（オホーツク総合振興局）のほか、日本海側（後志総合振興局）、津軽海峡（渡島総合振興局）、太平洋側（根室振興局）の4振興局管内9市町村の海岸で行われた。

結果、オホーツク管内においてドラム缶8個（小清水町）、後志管内において油に汚染されたウミネコ生体1羽とハシジロアビ死体1体（いずれも小樽市大浜海岸）が確認された。

油関係の漂着物・汚染鳥以外の特筆すべきものとしては、多数のミズナギドリ類の死体確認（網走市、小清水町、斜里町、いずれも油の付着等はなく自然死と考えられた）や、管内初となるコアホウドリの死体の発見（斜里町）が挙げられる。これらは調査期間が5月末までの1ヶ月間延長された（後述）ことにより、渡りの時期と合致したことによる成果と考えられた。

【調査期間および調査参加者数】

[調査期間：2012年4月1日～5月31日（2ヶ月間、調査日数は任意）]

当初は例年通り4月1～30日までの30日間としていたが、オホーツク管内を中心に海岸の雪解けが例年よりも遅かったため、1ヶ月延長して実施することとした。また、この間、4月15日に浜小清水海岸において、第4回目となる「海岸調査講習会」を実施した。

[参加者数：26名（小笠原久美子、小山内庸博、小山内澄恵、川崎里実、川崎康弘、黒沢信道、黒沢優子、佐久間麻奈美、嶋崎太郎、多賀憲雄、高松純奈、寺田紋子、東本光弘、外崎秀和、ダグラス・ブラート&まどか、榎場ゆかり（他5名）、藤森乃徳、山本友紀、渡辺恵、渡辺義昭：50音順、敬称略。上記講習会参加者含む）

【調査地点数】

全 22 調査地点

- ・オホーツク管内（13 地点）：網走市（5 地点）、紋別市（3 地点）、小清水町（5 地点）、斜里町（1 地点）
- ・根室管内（1 地点）：根室市（1 地点）
- ・後志管内（4 地点）：小樽市（1 地点）、積丹町（3 地点）
- ・渡島管内（3 地点）：函館市（2 地点）、北斗市（1 地点）

【調査地点別油関係漂着物】

- ・止別駅裏～止別川河口（小清水町：5月15日） ドラム缶 2 個
- ・ウエンベツ川河口～止別駅裏（斜里町・小清水町：5月30日） ドラム缶 3 個
- ・小清水原生花園～濤沸湖口（小清水町：5月31日） ドラム缶 3 個
- ・大浜海岸（小樽市：4月8日） 中程度の油汚染が認められるウミネコ生体 1 羽
- ・大浜海岸（小樽市：4月8日） 軽度の油汚染が認められるハシジロアビ全身死体 1 体

調査にご協力くださった皆さまへ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2013 年の調査日程は

4 月 1 日～5 月 31 日 です。

今年もご協力をお願い致します。